

2010年7月10日(土)

高橋亜希子

### ★今週の一言

7月4日日曜日は、アメリカの独立記念日でした。街のところどころでイベントや花火があるというのが一般的な独立記念日の催しのような感じでした。私は、NCでの最後の週末とも重なったので、アッシュビルというNCの西の端、アパラチア山脈の裾野の避暑地でもある街に出かけてきました。日本でいうと軽井沢みたいな雰囲気、ダウントウンも古い建物が多くアートの町としても知られています。タウンホールの周りの公園で、朝からコンサートや出店も出て賑わっていて、日陰では芝生に寝そべて読書をしたりビールを飲んだり、子どもは噴水で水遊びしたり、みんな思い思いに過ごしていました。アッシュビルの街自体が素敵なのですが、気候がまた最高でした。暑い暑いですが、日影に入るとさわやかな風が吹き本当に心地よいのです。この催しのフィナーレが花火で、20時ごろから公園でスタンバイしていましたが、まだまだ明るくてようやく21時ごろ日没し、21時半ごろ花火が上がり始めました。BGMもガンガンなる中で、ドカンッカン、バンバンという感じで、日本のように花火の音や花火と花火の間を楽しむ感じではありませんね。特に最後は、強烈で音だけ聞くと爆撃のようでした(笑)。



そして、翌日はアッシュビルの街から車で30分ほど東へ行ったところにある「チムニーロック」という岩山に行ってきました。チムニーというのは煙突という意味で、写真のような形状の岩が縦に裂けているような岩とか崖の総称を「チムニーロック」というようで、他のところにもあるそうです。登山家の人の中にはチムニーロックばかりを制覇しているチムニーロックマニアの人もいるそうです。

アッシュビルのチムニーロックは、地図やビジターガイドの表紙にもなっていて名所です。写真は頂上付近から撮ったものですが、レイクビューも眺められ本当にきれいでした。もちろん、この写真のところも行きました。山全体ハイキングやロッククライミングもできますが、バリアフリー設備もあり駐車場からエレベーターで麓まで上がれます。私は、暑さには代えられずエレベーターに乗りました。(帰りはちゃんと歩いて下りました)



2ヵ月半の滞在で一応ノースカロライナの名所を観光できてよかったです。あ、でも一番の名所はライト兄弟が初めて飛んだ場所ですね。残念ながらそこへは行けませんが、もし今後みなさんもNCへ訪問する機会があればぜひ行ってみてください。

さて、今週はファイナルウィークということで、どこか見たいところや希望はあるかと、コーディネーターのジェイソンが聞いてくれました。なので、再度VRとLTSをリクエストしました。残念ながら、LTSは担当のJCが体調不良で難しかったので、VR担当のコリンの動きに同行させてもらうことができました。また、空いた時間に6枚くらいあるインフォーマルアセスメントのレポートを読んで、そのケースにあった仕事を考える練習問題をしました。

## 1、アセスメント情報からふさわしい仕事を導く練習問題

実際のクライアントの受け入れから、インフォーマルアセスメントのまとめを読んで以下の3つの問いがありました。「このクライアントに適した仕事を見つけていくために他に不足している情報がありますか?」「この人の強みと活かせるスキルは何ですか?」「現在、この人にふさわしい仕事は何ですか?」というものでした。

もちろん名前や会社名などは変えてありますが、本人の特性や課題などはそのまま、リアルな情報になっています。まとめ方も、とても参考になりました。基礎情報・簡単な生育歴・職業スキル(アセスメントのために実施した全ての課題や現場での様子)、職業行動、コミュニケーション、対人スキル、自立機能、移動について書かれています。半年くらいかけてのまとめになっていて、新しく行った実習についても補足資料として付け加えられていてざっと6ページくらいです。(実際のVRのアセスメントのまとめは、18ページくらいといいますから、読めばその人の状況がわかるようになっています)

それを読み、考えて、私の答えをジェイソンに見てもらったのですが、「その通りだね」と同意してもらえ良かったのです。そして、「これは誰だと思う?」と聞かれたので「Dさん?」と答えると、当たりでした。Dさんのことは断片的にしか知りませんでしたが、なんとなくそうかなあと浮かんできた人です。現在きれいな形でうまくいっている訳ではなく、さまざまな現場での仕事やボランティアなどを組み合わせながら1週間を過ごしています。Dさんは、新しい活動への不安がすごく高いので、少しずつできる仕事を広げ、またDさんにあった仕事や環境を探している段階のようでした。

練習問題はテストみたいでちょっと緊張しましたが、1つ仕事をやった、できたからOK、終わり、ではなく、その人にふさわしい職場や仕事、環境をみつけていくためにアセスメントし続けること(その人にあった仕事のゴールが一発で決まるわけではない)が重要なのですね。改めて考えさせられました。

## 2、VRの役割

ファイナルウィークにして、VR(職業リハビリテーション)の担当のもう1つの側面を知りました。VRはアセスメントと職場開拓、そしてLTS(ロングターンサポート)のクライアントに何か問題が起きた時に現場介入する「建て直し屋」でもありました。プレイスメントアセスメントとリトレーニングをするという意味です。日本の就労支援の言葉に置き換えると、職場でのアセスメント全般(職務・環境含め)と利用者の業務を教え直すための介入です。LTS担当ジョブコーチがLTSのクライアント(スタンダードモデル)を定期的に訪問しています。そのことは、以前のレポートでも報告していますが、そこで何か問題が発生し早期に話し合いで解決するレベルのものもあれば、そうはいかないものも出てきます。例えばよくあるのは、上司や同僚が変わってしまい仕事の進め方や環境が変わり、クライアントの仕事にも影響が出てしまう場合です。これまでのルーチンが崩れてしまったり、期待されている仕事のレベルが維持されなくなってしまうと問題です。自閉症スペクトラムの人にとって「変化」は苦手な要素の一つで不安が高まったり、イライラしてフラストレーションが高まったりしやすいので要注意です。そのような時(もちろん内部で十分検討されるでしょうが)、VRの担当が現場への介入に入ります。おおよそ4週間~8週間を目安にしているそうです。はじめ3日くらいは観察し、そこから業務と環境を整理していきます。その時、クライアントのスーパーバイザーや上司・同僚とも新たに関係を作っていきます。そして、2~3週間集中的に教えていって、その後フェードアウトしていきます。フェードアウトの前に、再びLTSの担当者に引き継ぎます。本当に役割分担が明確で、まさに業務連携してやっています。これも当たり前といたら当たり前なのですが、これまでの自

分がやってきていた就労支援にはそういった要素が大いに欠けていたと気づき、反省しました。

このプレースメントアセスメントとリトレーニング中の現場を訪問しました。ラーレイ(州都)にあるノースカロライナ州立大学の獣医学部で実験動物の檻やカゴの清掃と猫のケアの仕事をしているEさんの職場です。Eさんは、大学を卒業後VRの支援を受けてこの大学の仕事に就き5年になるそうですが、前述のように、スーパーバイザーが変わってしまったことと、職場の建物が変わるという2つの変化が生じてしまいました。そこで、5月の終わりから介入に入り、そろそろフェードアウトを考えているという時期でした。Eさんは、アスペルガー症候群でとてもスマートでです。仕事をしている様子をジロジロ見られるのが嫌なので、何かを読んでいる風にして見学しました。コリンにこの仕事に就いた経過を聞くと、動物が好きで(特に猫が)あったのと非常に丁寧なものの扱いや清掃のスキルを持っているからとのことでした。朝8:00~14:30までの6時間、週5日勤務されています。Eさんの仕事の8割はラット、マウス、うさぎの檻とカゴの掃除です。午後の最後の仕事が猫のえさをやったりケアをする仕事です。

建て物が変わったことで、業務の流れにあわせた物理的な環境を再設定する必要があったのと、Eさんはとても丁寧なのですが、効率アップが課題でした。

汚れた檻を洗う専用の部屋とその隣に洗浄された檻を乾燥させるクリーンルームがあります。この2つの部屋の間に大きな洗浄機があり、檻が左(汚れたものを洗う部屋)から右へ(洗浄されてきれいになった部屋)流れる形です。汚れたものを洗う前に、檻やカゴに敷かれているクッション材のくずや糞を取り除いていきます。そして、空になったカゴを洗浄機にかけるためにラックに並べていく流れです。

介入前は、汚れた部屋に無造作にカゴや檻が運ばれてきていて、何から手をつけていくのかがわかり難かったようです。また、Eさんの仕事の効率と動きを見ても無駄が多く、捗り難い状況になっていたそうです。それを、コリンが整理したのですが、汚れた檻は、汚れたものを洗う部屋に入れ込むのではなく、その部屋の隣の通路に一列に並べて置く。(もちろんスーパーバイザーと相談してそのルールを他の従業員に実行してもらえるよう周知を図っておられます)そして、Eさんがまず檻やカゴに敷かれているクッション材や糞を取り除くコーナーをベースにして、左側に今から処理するカゴ、Eさんの後ろにラックを置くという物理的な構造化とワークシステムをつくりました(写真)。(カゴに取り付けられている動物の給水器を洗浄するのも同様の手続き)そうすることによって、これまでの出来高と比べてどれくらい効率が上がったかをコリンが計測していました。Eさんは非常に丁寧にクッション材や糞を取り除く作業を行うので、コリンが効率のよいやり方を見せて教えたそうなのですが、なかなかそれが受け入れられず(自分のやり方でやりたいと)苦労されたようでした。このへんが彼らしいところなのですが、実際に効率を量や時間で示していったことで、やり方が変わったといったそうです。



また、ちょうどコリンが月曜日にEさんのお母さんと面談したそうですが、モチベーションの維持が難しいことが課題だそうです。これも知的にも高いアスペルガーの人の特徴だと思うのですが、何のためにこの仕事をしているのか?この仕事は何の役に立っているのか?など、意味づけあるいは動機づけをいろいろぐるぐる考えてしまうことがあるので、お母さんと面談をしたり、興味関心のあるものと結び付け考えていました。コリンは効率(量)あがれば、猫のケアの時間を少し増やしていくように考えていると言っていました。

こちらでもやっぱり職場開拓は難しいですが、TEACCHのJCやスタッフにとっては、アセスメントとリトレーニングはお手の物のように見えました。こういった環境を操作したり調整する応用力を意識していかねばと思いました。

### 3、代理ジョブコーチ

5月の後半から代理ジョブコーチで、ワールドマーケットとトレーダージョウズに週に1回くらいのペースで一人が入っていました。慣れた頃に終了となってしまいましたが、代理として一人で現場に入らせてもらったことは、いい経験となりました。どちらも1対1モデルの現場なので、任せ易かったのでしょうね。

ワールドマーケットのLさんは、コミュニケーションが苦手であっても「いらっしやいませ」「何かお手伝いしましょうか」「カゴはいかがですか」とお客さんの状況に合わせて言葉を選び対応しています。ちょうど私の研修の最後がこの現場だったのですが、朝礼がありマネージャーから連絡事項がありました。その様子から、Lさんは従業員の一員として受けいられているなあというのをしみじみ感じました。が、その後お客さんが大きなソファを購入されてそれを引き取りに来られ、マネージャーから数人で手伝うように言ったのを聞いて、Lさんは張り切って倉庫までは行ったのですが…、そこへ言って騒ぐだけで機転を利かしてソファを運び出すために手前のものをどけたり、協力をして重たいものを運んだりは難しく(私が少し手伝ってから)、自分の持ち場に戻るよう促しました。その後3時間は、もくもくと商品を次から次へと棚に出していきました。やっぱりLさんには本業がふさわしいです。Lさんは、日本にとっても興味を持っていて、私を代理JC兼友達とっていてくれるので最後のお別れはちょっと寂しいモードになりました。Lさんの業務の最初と最後に今日の担当JCがイニシャルを書く欄があるのですが、最後の記念に漢字でフルネームで書きました。

また、トレーダージョウズのAさんは、ほぼ自立して業務をされていますが、不安が高く心配事があるとそれをJCやお母さん、あるいはコーディネーターのジェイソンに確認しないと落ち着かないこともあり、スケジュールのフォルダーに不安なことや質問を書くページがあります。Aさんもとてもスマートで、宇宙や自然科学に詳しく、難しい質問にほとんど答えられませんが、Aさんには送迎もさせていただき、貴重な体験となりました。彼らは二人ともアスペルガータイプの方ですが、共通して支援を受けることを受け入れ、できることは自分で、でも困った時はJCの存在を頼りにしているのを感じました。あいにく私の英語がいい加減にもかかわらずです。

今回の研修で、希望していたものの一つにソーシャルクラブがあります。私もこれまでの業務で実施してきたので、こちらのものはどんな感じか楽しみにしていたのですが、昨年度から予算削減の影響で毎月の実施はできなくなっていました。しかし、半年に1回のクリスマス会と夏のレクリエーションは何とか継続しているそうで、それがちょうど来週あるとのことでした。残念ながら参加できませんでしたが、いろんな現場でクライアントの名前と特徴もわかるようになったので、楽しそうだなあと想像だけしました。

### 4、最後に

写真は、私が2ヶ月半お世話になったチャペルヒル TEACCH センターです。2階建てに見えますが、地下フロアもあり3階建てです。地下が、SEや総務関係と会議室のフロアで、1Fが療育・診断部門で、2Fが研究リサーチの部門です。



ビジターが来られると、地下にある会議室に通されますが、エレベーターをおりると、故ショプラー先生の過去の記事や佐々木先生と日本との関連の写りが飾られています。国際治療研究所で毎年開催されているノースカロライナの自閉症関連機関を回るツアーの写真も過去10年くらいのもので飾られていて、私や古東さんが過去に来たときの写真もありました。

ビジターコーディネーターのジルにも良くしていただいたのですが、最近では日本からの見学者も多いそうです。

(私も含め、私が滞在中にも3名来られました)

それもあって、SEの紹介ビデオも日本語(重松さんの吹き替え付き)版がありますし、パンフレットも日本語版を作りたいと思っているので訳してほしいとジェイソンから言われ、自分の勉強も兼ねて訳しました。(ビデオでほとんど同じことを言っていたので・・・そんなに難しいものではありませんでした)

こちらで研修でお世話になった方々とお話で、日本から来たと言うと、みなさん佐々木先生の名前を挙げられていました。5月にあったメイカンファレンスの今年の功労者授賞式もあったのですが、佐々木先生が選ばれていらっしゃいました。日本との関係や日本での発展と実績について、TEACCHの中でもこのような形で評価されているのだなあと思いました。



## 5、おまけ

ノースカロライナにも IKEA が上陸していて人気ようでした。シャーロットにしかないの、チムニーロックの帰りに寄りました。一見、日本の IKEA といってもわからないくらい店構えが同じなので、アメリカと NC のフラッグが入っているところを撮りました。

すみませんが、シャーロットの IKEA でも障害の方の雇用をしているかどうかまでは調査できませんでした。



.....

以上をもちまして、NC レポートは終了致します。自分で読み返してもまだあったと思うくらい誤字脱字が多く、拙い文書を読んでいただき、ありがとうございました。

8月から職場復帰しますので、またみなさんにお目にかかる日を楽しみにしております。